

子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

News Letter

Vol. **9**

oct. 1998

キャプナ ニュースレター

発行：子どもの虐待防止ネットワーク・あいち 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-4-404 TEL/FAX 052-232-2880



「はぐるま太鼓」をご存知ですか。

福井県武生市の「はぐるまの家」で暮らす元非行少年らでつくる和太鼓の演奏集団です。年間100回に及ぶライブ活動のほか、刑務所や施設の慰問活動もしています。

11月14日午後1時から、名古屋市港区の名古屋港湾会館で開かれるCAPNA三周年記念大会の目玉イベントが、この「はぐるま太鼓」のステージ。若者たちの魂のライブを、ぜひお見逃しなく。(詳細は4, 5面に)

社会動かす情報発信を 話題呼ぶ「見えなかった死」

この秋、CAPNAは本格的に出版活動に乗り出しました。その第一弾が「見えなかった死～子ども虐待データブック」(発行・キャブナ出版、発売・ライフ企画)です。全国の虐待死事件を調査し、分析した内容で、これまでだれも知らなかった児童虐待の実態を明らかにした力作として、マスコミでも話題を呼んでいます。社会を変えていく情報発信が、これからの市民団体の役目です。また、キャブナブックレットシリーズの皮切りとして「子どもの虐待の実態と対応」(小林美智子著・500円)も近く発売されます。



2年で190人が死亡。

「見えなかった死」は、第1章で'96、'97年に起きた虐待死事件(せっかん死、無理心中、育児放棄、発作的殺人)を月別に紹介した後、さまざまな角度から分析を加えています。2年間で亡くなった子は、96年に86人、97年に104人と合わせて190人に達しています。

しかも、掘り起こしていない事件もまだまだありそうです。

私たちは新聞のデータベースなどを可能な限り検索し、情報収集に努めてきましたが、全国各地で起きている小さな事件はどうしても拾い上げられない面があるからです。

これまで公式な警察統計などがなかったため、虐待死の実態はだれにも分かりませんでした。「日本は欧米に比べ、虐待が少ない」という根拠の乏しい“常識”もまかり通っていました。

まず、データを積み上げ、そのうえで対策を考えていく必要があります。行政機関が腰を上げるまで、私たち市民団体が独自に調査し、社会に発信していく必要があります。そうした思いから、この本をつくりました。

事件のデータだけでなく、第2章では、各都道府県が児童虐待の問題にどう取り組んでいる

かを調査し、紹介しました。地域による取り組みの違いがくっきりと分かります。第3章では、CAPNAの幅広いメンバーの思いをまとめました。いろんな立場のメンバーが「子どもを守る」という一点で力を合わせ、活動に取り組んでいることをご理解いただけるかと思いません。

日本の虐待防止研究の基礎となる書だと自負しております。

A5判、194ページ、1200円(税込み)。児童虐待の問題に関心を持つすべての方にお勧めしたい本です。CAPNAの会員の皆様には、一冊贈呈させていただきます。ご一読のうえ、お知り合いにも勧めただければ幸いです。

キャブナ出版は、CAPNAが事務所用のマシオンを購入する際に、名義上の必要があつて設置した有限会社で、今回が初めての出版物となります。

「子どもの虐待の実態と対応」

—実践的なテキスト

「子どもの虐待の実態と対応」は、CAPNAがことし4月に開いた特別セミナーで講師を務

めていただいた小林美智子さん（大阪府母子保健総合医療センター）の講演内容を再編集したブックレットです。

小林さんは、日本の児童虐待防止研究の草分けの一人で、日本子どもの虐待防止研究会の事務局長、児童虐待防止協会（大阪）の運営委員として活躍されています。

私たちが虐待を受けた子を救い、世代間連鎖を断つために必要な支援体制について、大阪府下での追跡調査などをもとに明快に提示していただきました。医療、保健関係者をはじめ援助にかかわるすべての人に読んでいただきたい実践的なテキストです。

子ども虐待の問題を理解し、勉強したい方のために、これからも手帳なブックレットシリーズを出版していく予定です。問い合わせはCAPNA（052-232-2880）へ。

ニーナさん来訪

アメリカのウィスコンシン大学ロースクールのニーナ・カミック助教授が10月3日、名古屋市弁護士会の招きで名古屋を訪れ、児童虐待の社会対策について講演しました。アメリカの取り組みのすごさを実感する内容でした。

まず、驚かされたのは通報システムです。医師、看護婦、教師は虐待を察知したら通報する

義務があり、それを怠った場合は1000ドル以下の罰金または6ヶ月以下の懲役が科せられます。

通報を受けて、まずソーシャルワーカーが調査し、裁判所にその結果を報告します。そのうえで、子どもの代理人となる弁護士を選任（弁護士費用は、郡が負担）。ソーシャルワーカーの調査結果や弁護士と親の双方の意見を聞き、裁判所が子どもの処遇を決めます。この際、親の90%は虐待の事実を認めるそうです。

虐待が明らかになれば、親から引き離され施設または養護親のもとに引き取られることになります。両親の元に置かれる場合でも、一年以内に環境の改善がない場合は、親元から引き離すといった監督処置がとられることが多いようです。

人口17万人のマディソン市の場合、このような裁判手続きは1週間に6例ほどあり、制度が整っていても、特に幼い子への虐待は気づきにくいそうです。

講演の後、ニーナさんはCAPNAの事務所を訪問し、活動内容について熱心に質問しました。そして「こうした予防活動は私たちにも勉強になります。市民団体がここまで一生懸命やっていることに感心しました」と話していました。（寄稿・大山泰生弁護士）

「NHKが密着取材」

10月下旬から、NHK大阪放送局のグループがCAPNAの活動を密着取材しています。祖父江代表や岩城事務局長の1日を追いかけたり、電話スタッフのインタビューをしたりしています。

毎年12月の人権週間に放送している特集番組の取材で、今年は児童虐待と高齢者虐待の問題を取り上げるそうです。CAPNAの電話相談や危機介入、社会啓発などの活動を通じて、家庭の中で起きる人権侵害を防ぐ方法を考えていく番組です。

放送予定日は、12月5日（土）午後9時から10時15分（NHK教育テレビ）。タイトルは「家庭という密室の中の人権～虐待の連鎖をどう断ち切るか～」。どうぞご覧下さい。

担当ディレクターの吉田準さんは「児童虐待を防ぐ市民団体は各地にあります。パワーを持続していくことの大変さをよく感じます。その点、CAPNAはすごいエネルギーを感じる組織です。深刻にならず前向きに明るく取り組んでいく姿勢に共感します」と話しています。

感動いっぱい三周年

CAPNAの三周年記念大会は「生きなおしたい—児童虐待から見えるもの」が総合テーマ。児童虐待が一人ひとりの人生に大きな影響を及ぼしていることを訴えます。そして、虐待を受けた人たちの回復と自分探しの旅に声援を送っていただきたいと思います。感動がいっぱいの三時間あまり。11月14日午後1時、名古屋港湾会館でお待ちしています。

13:00 総会

この1年、CAPNAが子どもたちを守るためにしてきたこと、会の運営状況、本の出版などについて、会員の皆様に報告させていただきます。ことし12月のNPO法（特定非営利活動促進法）施行に向けて、CAPNAが準備していることについても説明させていただきます。

13:30 なだいなださんの講演

精神科医として作家として、幅広く活躍されているなだいなださんをお招きします。

小説「帽子を…」(1957年)や軽妙なエッセイ「パパのおくりもの」(1960年)などで知られるなださんは、TBSラジオの「こども電話相談室」(1971年～)の担当者としても人気を集め、88年からは明治学院大学国際学部教授。アルコール医療の分野でも著名な方です。ペンネームの語源は「何もなくて、何もない」という意味のスペイン語。

豊富な体験と、温かくて鋭い語り口は、聴衆を魅了することでしょう。

約1時間、お話をお聞きした後、長年の友人でもある祖父江文宏・CAPNA代表とのトークもあります。お楽しみに。



15:00 休憩

ロビーにて、CAPNAの入会申し込みや出版物の販売をしております。

15:15 「はぐるま太鼓」のステージ

代表の坂岡嘉代子さんの語りを交えながら、勇壮な演奏を繰り広げます。

福井県武生市の「はぐるまの家」で過ごすメンバーの多くは、シンナーや窃盗、傷害、暴走などの非行歴を持っています。親から虐待を受けて育った経験を持つ人も珍しくはありません。

そのステージは、彼らがひたむきに生きていることの証(あかし)です。プロとして認められて10年。多くの曲をつくり、多くの人たちとの出会いを重ねてきました。

激しいばちさばきで「くじけるな、闘え」と叫ぶような「闘いの曲」は、

96年夏、スイスのチューリッヒ

にある末期エイズ患者の施設などで連続コンサートを開いた際に、女性患者から「私の命があるうちに曲をつくって聴かせて」と頼まれたもの。

バイクで死んだ友人をしのぶレクイエム「波動」、かなわなかった夢に向けて力の限り連打するイリュージョン(幻影)など、心を揺さぶる曲ばかりです。

忙しい「はぐるま太鼓」の皆さんが福井県から遠路、名古屋に駆けつけてくれるのは、これまでのCAPNAとの信頼関係に基づいて、応援役を買って出てくれたからです。

素晴らしいステージをご期待ください。



CAPNA 3周年記念大会

- 11月14日(土) 13:00～16:15
- 名古屋市港区、名古屋港湾会館
(地下鉄名古屋港駅下車5分)

前売り一般1500円(会員1000円)
当日 一般、会員ともに1800円
託児あります(定員12人、500円、要予約)
お申し込み、お問い合わせは
CAPNATEL/FAX 052-232-2880へ。

子どもを守る市民たち

日本福祉大学 加藤悦子

初めての場所なのに、ホッとする。言葉が通じなくても、分かり合える。アメリカ滞在中、いつもそう感じていた。日本とアメリカ。国は違っても「子どもを守りたい」と思い「そのために何ができるか」と考えている人の心に流れているものは皆、同じである。

この夏、私はアメリカ・カリフォルニア州オークランドのCAPで、インターン(研修生)として働いた。CAPとは、Child Assault Preventionの略。主に幼稚園児から高校生までの子どもを対象に、身の危険が迫ったとき、どう対処したらよいかを分かりやすく伝える、地域に根ざした活動を行っている市民団体である。私はここに、アメリカの市民による子どもの虐待防止活動を学ぶためにやってきた。

■アシーナ

CAPには、私のほかにもう一人インターンがいた。

彼女の名前はアシーナ。16歳の女の子である。通っている高校のサマースクールプログラムを通して派遣されていた。

彼女は、私に電話の取り方、ファックスの送り方、コピーの取り方など細々したことを教えてくれた。陽気で、ものおじしない子だ。仕事でもよく歌を口ずさんでいる。「うまいね!」と誉めると、うれしそうに得意のゴスペルを披露してくれる。

将来は法律と子どもに関する仕事をしたいという。

なぜ関心を持ったのか不思議で、尋ねてみた。思いがけない答えが返ってきた。

「それはね、私が昔、虐待されたからよ」
驚いて見つめる私に、彼女はニッコリほほえみ



事務局長のノルマさん(左)と筆者

返した。

話してくれてありがとう、あなたのことを日本の人たちと分かち合っていていいかと聞くと、彼女はきっぱりと言った。

「かまわないわ。私は何も悪いことをしていないもの。私が堂々と語ることで、私と同じ思いをしたかもしれない子が勇気づけられるかもしれないし…」

彼女の強さに心打たれた。

いろいろな人がいろいろな思いを持って、子どもを守る活動に参加している。それを受け入れるNPO(非営利の市民団体)がたくさんある。

■なぜ続けるのか

オークランドCAPは海の近く、木造の建物の2階にある。カリフォルニアの強い光が周りの緑とよく調和して、とても美しい。事務所はこじんまりとしたカントリー調。柔らかい光がさしこむ、ホッと落ち着ける空間だ。

事務局長はノルマ。黒い髪・大きな瞳、やさしい雰囲気的女性である。彼女はオークランドCAPのただ一人の専従職員である。

今から10年前、CAPはとても大きな組織だった。カリフォルニア州の全ての公立の幼稚園、小、中、高校でCAPのトレーニングが行われ、事務所のボードは予定で真っ黒になっていた。

しかし、転機は突然、訪れた。1990年、カリフォルニア州の考え方が変わり、それまで1,100万ドルあった助成金が全てカットされてしまったのだ。

運営資金のすべてを助成金でまかなっていたC

A Pの運営はたちまち行き詰まった。

でも、CAPトレーニングの素晴らしさを信じ、何とかして活動を続けようとする人が新たに理事会を組織し「オークランド地区の活動だけは続けよう」と決意した。そして公的な助成だけに頼らず、長期的な展望を持ち、個人の寄付を集めるなど、いろいろな形で資金調達をしていこう、ということになった。その実行役として指名されたのがノルマ。彼女がその当時、地域でCAPプログラムを推進する担当者だったからである。

彼女に尋ねた。「どうして、たった一人になっても続けようと思ったの？」

「そうねえ、いろいろな理由はあるけど…」チラリ、と事務所に山のように積んである段ボール箱に視線を移した。今までのトレーニングの記録が詰まった箱だ。

一度、彼女とメキシコ料理のお店でランチを食べていたとき、ウエイトレスがノルマに声をかけた。「知り合い？」と聞くと、「ええ、彼女は学校でCAPのトレーニングを受けたのよ。その時、私がトレーナーだったの」と、ノルマはとてもうれしそうに説明してくれた。

あの学校でも教えた、この学校はとてよかった…など、地元の子どもたちの話になると止まらない。一人だけど、独りではないのだ。

■NPOの役割

アメリカのNPOの運営についても説明したい。

事務局長は、ほとんどが専任・有給スタッフだ。社会に必要な活動をしようと思いついた最初の人が大体、事務局長になる。事務局長は日々の活動運営に責任を持ち、最高責任者としてどうしたらNPOをうまく経営していけるかを考える役目を負う。スタッフの採用・解雇も行う。少し大きいNPOになると、事務局長のほかにも、資金集め専門の職員・広告宣伝専門の職員がいたりする。

一方、アメリカのNPOには必ず「理事会」が存在する。制度的には、理事会の構成員の半数以上が団体から給与を受け取ってはいけないことになっており、役割は「理念遂行」である。NPOが理念として掲げる事柄を推進する責任を持つ機関である。

つまり、何か活動計画を立てるとき、「経営上うまくいくか」を考えるのが事務局長で、「それが団体の理念に即しているか」を考えるのが理事会である。

このようにNPOの中で「理念」と「経営」の



見学を訪れた子どもたちに説明する職員=オークランドのCAPで

せめぎあいが行われ、日々の活動が営まれていくのである。事務局長、職員はマネジメントの手腕が問われる。

アメリカには「子どもの虐待防止」に関わるNPOはどれだけあるのだろう、と思い、CAPの資料を調べたことがある。

大げさではなく数え切れないほどある。カリフォルニア州だけでも、移民・難民を対象にしたところ、刑務所に入っている女性の子どもを対象にしているところなど、対象の範囲も多岐に渡っている。

これだけ多いと、活動の良し悪しによって自然に市民による淘汰が行われる。それは寄付が集まるかどうかという形であられる。また、どんなにいい活動を行っていても、市民に認められ、支持を勝ち得なければ安定・継続した活動を行っていくことはできない。そのため、アメリカのNPOは活動内容の充実や市民への広報にとても力を入れている。日本は何を学ぶべきだろうか。

CAPNAは、発足3周年を迎える。市民団体として仲間を増やし、事務所を持った。電話相談、危機介入、各種セミナーやイベントなど行い、確実に実績を上げてきた。そして、今年12月にはNPO法に基づき、法人格をとることを検討している。

次のステップは何か。今まで以上に多くの人たちの共感と支持を勝ち得、効果的・効率的に、適切な活動を行っていくことである。

そのためにどういう組織運営をしたらよいか。資金はどうするのか。理念の「子どもの虐待防止」のため、何を準備し、将来的にどんな活動を行っていったらいいのか。

今、CAPNAはそれらを考える大切な時に来ている。



会員動向

新規

(正会員)加藤理香子 山本秀樹 野村由美子 中根幸江 太田一平 奥田綾子 斉藤忠夫 二村朋子 平山広子 福井恵子
安藤妙子 高橋麻由美 伊藤祥子 吉見啓子 野田明美 加藤文子 犬飼敏子 杉江不二子 松野桂子 前島美津枝 水戸憲一
石川のりこ 岩田清子 肥田美恵子 吉田京 石田公一 今泉洋子 大塚清子 牧由美子 石河久美子 原田洋子 吉川恵美子
前田洋子 服部真子 船戸浩 岩尾真奈美 水谷早美 津田佳代子 妹崎加奈子 三池哲二 増田克子 荻野任子 検校規世
加藤千晴 安藤ひとみ 土江三千代 杉岡玲子 白須賀明子 天野典幸 石津彩子 岩本真佐子 加藤佳子 野口明美
桑原和子 坂井時子 田中美保 松井香織 梅田純輝

(賛助会員)瀬沼あき子 芳林マリ子 新美美智子

(準会員)松井一弥 比嘉弘明 内田良 木島正司 柴田千春

継続

(正会員)垣内国光 加藤裕子 村瀬恭代 櫻橋昌子 木下詔子 萬谷育子 兼田智彦 花井増實 土岐宏枝 木全和巳
竹内民子 岡田之恵 神崎ますみ 金子範子 岩城正光 斉藤裕子 垣内国光 隈元真理子 矢満田篤二 原口恵美子
近田澄江 竹内康子 林和宏 小山敬 向山真由美 渡辺武子 西山仁 林恵美子 金森史枝 山本真輔 谷川輝美
中村ゆり子 上小路照江 伊藤トモ 浅田信子 新田美津子 安藤明夫 白石淑江 天野咲子 森亮爾 中嶋エリ 山田裕子
上野はるみ 河合良房 藤原雅美 加藤文子 天野晋子 常富佳子 大曾根京幸 野村春子 伊藤智香子 河合泉 津田さゆ子
山田万里子 堀龍之 石塚徹 柿本里佳 高橋直紹 多田元 多田耕史 中島香代子 高木雅彦 勝田浩司 神谷直毅 萩原剛
藤部光子 平工智浩 大杉哲代 大竹文子 鈴木まよこ 小島千恵子 滝村雅人 深川小夜子 浅野恵美子 山中健司
小松友子 板倉忍 服部富美 森咲子 原田直子 山口喜美代 樋口節子 阿部陽子 北村栄 大森雅弥 曾根原京子
栗田留美 山口幸男 高橋蔵人 小久保裕美 村田智子 園部好美 山本孝子 高橋祥予 定森恭司 定森露子 羽賀康子
杉浦宇子 塩谷富子 横田美津子 社会福祉法人子どもの虐待防止センター 安藤順一 尾崎仁美 岩上浩幸 川上明彦
森美智子 泰良真理子 大村美恵 谷口アキ 西村万由美 山内正美 加藤正 長島静枝 西野敏夫 服部高子 原田明美
浅井菜穂子 木澤和子 井上薫 後藤宗理 中川ひで子 荒川和美 打田正俊 西沢信正 塩見明美 成田朋子 木代泰之
広瀬志芽子 柴田睦 田村純子 鈴木郁子 荒堀憲二 板倉賢事 青木由江 矢作春江 大臨三千代 平田好美 隠岐美智子
中山賀子 石浜久文 村井航 吉水志保美 田島淑子 水野めぐみ 加藤君枝 中田照子 杉本直子 浅野みどり 吉村公夫
天野太郎 榊原光江 的場定美 森久子 村瀬八枝子 鴨伸子 西尾恵美子 大高クリニック 野田八重子 木戸洋子
広岡智子 横地満由美 岡本奈緒子 酒井直江

(賛助会員)三宅芳子 田島明 鬼頭英一 中央法規出版 岐阜いのちの電話 三浦俊彦 南山寮 向山富雄 藤田登与子
倉知美津子 山下勇樹 柴田喜久子 小川律子 名古屋市医師会 屋美裕資 日比野元千 雑賀正浩 松下和久 菱田輝夫
田中喜美子 杉山克己 山本保 同朋大学社会福祉学部 土屋慶蔵

(準会員)岩本加代

(寄付)

渡辺佑二 渡辺弘子 木村實 多田元 杉浦宇子 藤岡ゆかり 天野紀子 山田かぎえ 加藤裕彰 新田美津子 大和三重
筒井勇馬 岩城正光 安藤明夫 藤原雅美 栗田留美 中島香代子 小川律子 川上明彦 谷口アキ 後藤宗理 萬谷育子
柴田睦 杉山克己 的場定美 高橋麻由美 三池哲二 酒井直江 池尻啓子 祖父江文宏

*第8号で「高橋祥代」とありますが「高橋祥予」さんの誤りでした。

CAPNAニューズレター9号

編集人 祖父江 文宏
1部 200円

発行 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち
〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-404
TEL/FAX 052(232)2880



子どもを「かわいい」と思えない
カッとしてつい手を上げてしまう
虐待されている子が、近所にいる
虐待を受けた記憶に苦しんでいる
ほくは（私は）虐待を受けている
育児に疲れた。私はダメな母親だ

CAPNAホットラインをご利用ください

052-232-0624

平日 AM10～PM 4。研修を積んだスタッフが対応。
木曜日は東海市（0562-36-0624）でも受け付けます。